阿蘇火山における地球化学的観測*
Geochemical observation at Aso Volcano

九州大学大学院理学研究院　地震火山観測研究センター****

Institute of Seismology and Volcanology, Faculty of Sciences, Kyushu University

九州大学地震火山観測研究センターでは、垂玉温泉山口旅館本湯における温泉観測を、通常月に１回程度の頻度で実施している。観測源泉は中岳火口から、南西約５km に位置しており、含硫黄-カルシウム-炭酸水素塩泉（硫化水素型）に分類される。

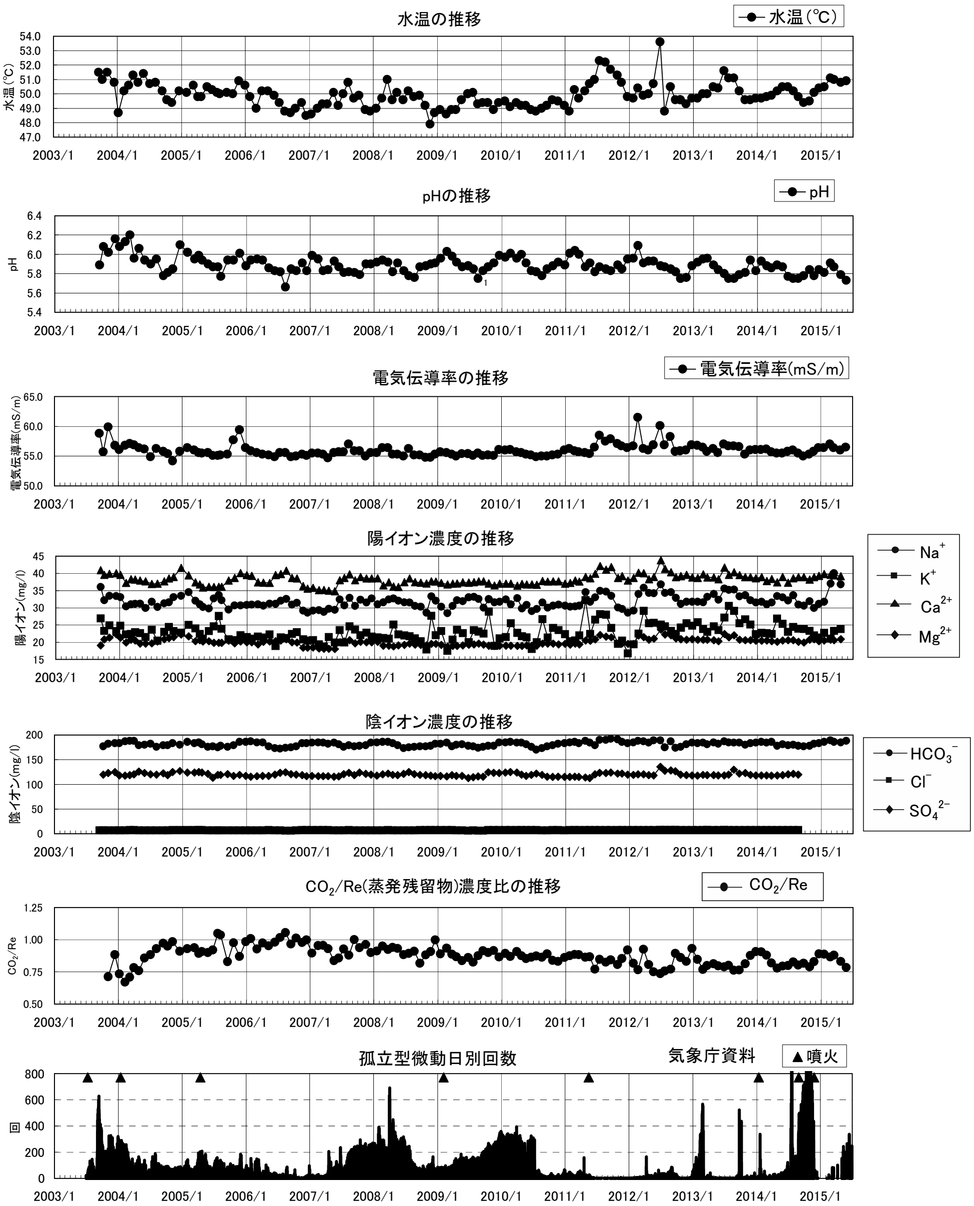
2003 年９月以降の観測結果を、孤立型微動日別回数（気象庁資料）とともに図１に示す。

垂玉温泉の水温は、2011 年２月頃から上昇傾向に転じ、変動はあるものの、やや高い状態で推移して、現在に至っている。

溶存二酸化炭素相対濃度（二酸化炭素濃度／蒸発残留物濃度）は、2013 年 10 月頃から上昇傾向を示し、2014 年１月頃をピークに、４月頃には通常レベルまで低下した。マグマ噴火に移行した 2014 年 11 月頃からは、上昇傾向を示していたが、2015 年４月頃からは減少傾向に転じている。

＊　2015年８月10日受付

＊＊　福井理作，清水　洋



第１図　垂玉温泉山口旅館(本湯)の水温・pH・電気伝導率・主要化学成分濃度・CO_2/Re(蒸発残留物)濃度比の推移(2003 年９月～)．孤立型微動日別回数は気象庁資料.

Fig.1 Changes in temperature, pH, electrical conductivity, main chemical component concentration and CO_2/Re（evaporation residue）concentration ratio at Yamaguchi Japanese Inn（Motoyu）of the Tarutama hot-spring（September 2003~）.　Daily number of the isolated tremor is from the JMA.